

荒瀬ダム撤去に伴う地域課題への取組状況(1) (部 会 関 係 等)

○第5回地域対策協議会(H24.8.8)後の主な取組み

- ①林道坂本山江線現地踏査 H24. 8. 31
- ②地元委員との意見交換会 H24. 11. 6
- ③個別検討部会 H25. 1. 24

1 消防水利部会関係

(1) 第5回地域対策協議会での報告内容

- 軽量の消防ポンプを2台導入（H24.3末：坂本支所及び葉木地区の消防団）
- 葉木地区への斜路設置（ボートハウス下流の降り道）については、ボートハウスとあわせて、市で活用策を検討されたうえで、県・市で対応を協議予定
- 工事中仮設道路（葉木橋下流の土砂撤去用の仮設道路）存置については、河川管理者やJR九州など関係機関との協議を行うため、測量等を実施し、課題の整理を行っている。
- 道路嵩上げ工事に関連する箇所等は、地元説明会等で具体的に協議しながら対応していく予定
（参考）
要望箇所16箇所（対応済み5箇所、対応予定5箇所、他の水利有り6箇所）

(2) 第5回地域対策協議会及びその後の部会での主な意見

- ・消防用の軽量ポンプを導入いただいたが、高齢化が進んでおりポンプを扱える人も少ない。県道から球磨川へ降りる斜路を葉木地区に是非作ってほしい。親水の観点からも斜路が必要。
- ・道路嵩上げ工事に関連する箇所（鎌瀬地区他）は、工事の際に斜路を整備することを明確にしてほしい。
- ・1月6日に中津道地区で火が発生した際に、消火栓、プールから取水したが、夜間であったため河川からの取水に苦労した。河川に降りやすいようにする必要がある。

(3) 現況等

【葉木地区への斜路設置（ボートハウス下流の降り道）】

- ボートハウスとあわせて、市で活用策を検討されたうえで、県・市で対応を協議予定。

【工事中仮設道路（葉木橋下流の土砂撤去用の仮設道路）存置】

- 測量調査、課題整理等を行い、河川管理者やJR九州など関係機関との協議を行った。今年度は土砂撤去を実施することが困難なため、来年度の土砂撤去工事の際に設置する仮設道路の存置ができるよう検討を進める。

【道路嵩上げ工事予定箇所への斜路設置】

- 地元説明会等で具体的に協議しながら、既存階段の擦り付け等の対応を予定

【現状の消防水利の確認】

- 常備消防の対応を確認。県・市で可能な対応を検討。

工事中仮設道路（葉木橋下流）
（H23.12.12 八代市意見書提出）



【現在の状況】



- ① 泥土は水面下であり、水中掘削を行った場合、河川環境に悪影響が出る可能性がある。
- ② 来年度は、シミュレーション上、堆積した泥土が流出する可能性は少ない。
- ③ 来年度に泥土を除去すれば、水位が低下しているために濁りの危険性が少なく、より河川環境に負荷を与えない。

⇒ 堆砂・泥土除去を来年度以降に実施することを、フォローアップ専門委員会で確認

2 施設部会関係

(1) 第5回地域対策協議会での報告内容

- 発電所等の施設については、資金や撤去時期の面から撤去する方向で検討中
- ボートハウスについては、撤去工事に伴う水位低下の状況を見ながら、市で活用策を検討されたうえで、県・市で対応を協議予定

- ・井戸の調査結果

- 井戸の水位は一定程度あるものの、濁りが飲料水の基準を満たさない

- ・今後の水位低下

- 葉木橋周辺で現在より1～2m程度低下見込み

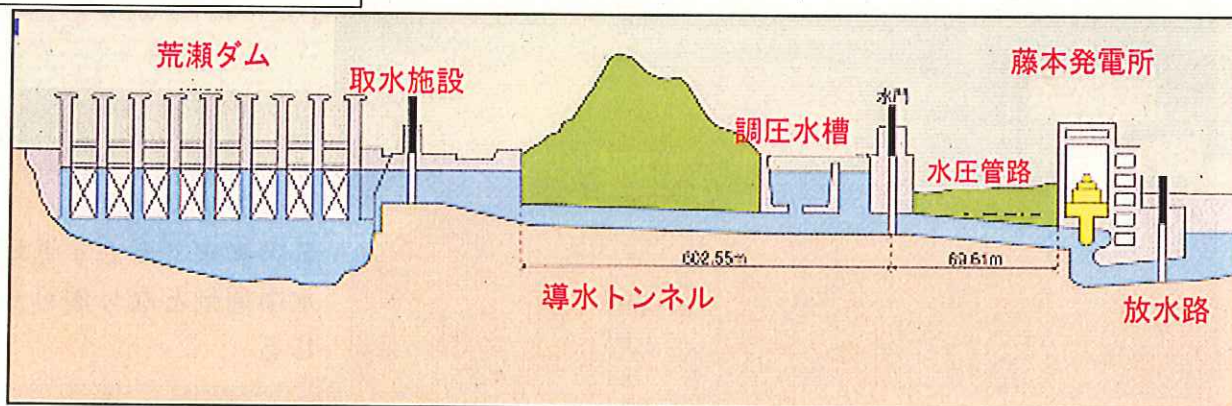
(2) 第5回地域対策協議会及びその後の部会での主な意見

- ・市に要望している葉木地区の簡易水道ができればボートハウスの水の問題は解決するのではないか。
- ・ボートハウスの活用策の検討状況を示して欲しい。

(3) 現況等

- 隧道（導水トンネル）等については、地元要望を踏まえ来年度から埋め戻しを行う。
- ボートハウスについては、「球磨川と住民の暮らしを検証する場」とすることを基本に八代市で活用策を検討。

荒瀬ダム関連施設概要図



3 地域交通関係

(1) 第5回地域対策協議会での報告内容

- 企業局で大門・藤本の地域内に離合箇所を整備予定（5箇所）
- 道路改良・嵩上げについては、八代地域振興局で交通量調査を実施し、現在、測量及び設計を行うなど、早期着工を目指して取り組んでいる。
- 球磨川架橋(代替橋)については、現在の制度の中で可能な対応を再度検討した。
 - ・地元の方々が「生活用の道路であり、生活の一部として必要不可欠」として、架橋を希望されている状況は理解できるが、県として整備することはできない。県道の安全性・利便性を向上させるなど、地域交通全体で対応

(2) 第5回地域対策協議会及びその後の部会での主な意見

- ・長材が搬出できないなど林道が機能していない。林道を活かすという観点で、起点を変えるなどして代替橋ができないか。
- ・ダムがなくなり迂回すれば物理的経済的に負担がかかり、地域の行事にも不便。住民の生活道路として代替橋が必要。
- ・県や八代市等と協議する余地が残っているのではないか。地域住民の思いを汲み、納得できるような説明をお願いしたい。
- ・県として手は出せないというなら、八代市、国交省ではどんなことが模索されるのか、という協議の形を立ち上げ、この協議会に報告してほしい。代替橋は、八代市の第一の要望ということをつえ、前向きな進め方をしてほしい。
- ・代替橋はあるにこしたことはないが、橋についての意見には地元でも温度差がある。
- ・一番大事なのは、地元にも不便な思いをさせないこと。県道中津道八代線を使いやすくすべき。

(3) 現況等

【林道坂本山江線利用状況等】

- 現地踏査：8月31日に現地確認を実施し、沿線で伐採されている現状を確認。
- 利用状況：(八代市及び木材市場に確認)
 - ・坂本山江線からの木材の搬出量：2年間(H22,H23)で3,571m³。(10tトラック換算298台分)
 - ・木材市場への出材の割合：4m材65%、3m材30%、6m材5%。6mを超える材は注文材で7m~8m材が年1回ある程度。
 - ・搬出ルート：上流の葉木橋（人吉方面への出荷及びトレーラーに積み替える場合）、下流の中谷橋（積み替えずに搬出する場合）を利用。

【県道中津道八代線の改良、嵩上げ】

○ 県で道路改良及び道路嵩上げを実施

[取組状況]

・改良

藤本・大門地区について、現道幅員、住宅の立地、交通量等の状況を踏まえ、道路改良を実施する。

- ・住宅が連続していない地域については、全幅員 5m 車道幅員 4m を基本として整備する方向で計画
- ・住宅が連続している地域については、道路拡幅による住戸移転を極力控え、かつ、利便性を向上させるため、現況道路に待避所（全幅員 6m 車道幅員 5m）を整備する方向で計画

計画案について、2 地区への説明を終え、現在、工事实施のための詳細な設計に取り組んでおり、今後も早期の工事完成に向け取り組む。

・嵩上げ

- ①松崎～藤本間、②荒瀬ダム～大門間の 2 箇所について、道路嵩上げを実施する。
- ①は関係者（JR・河川管理者）協議を行っているところであり、今後、課題等の整理を進め、早期着手を目指す。②については、年度内に計画案の地元説明及び工事契約を行う予定。

【球磨川架橋（代替橋）】

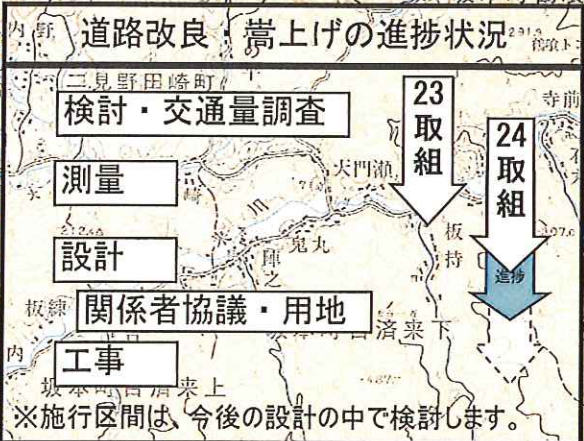
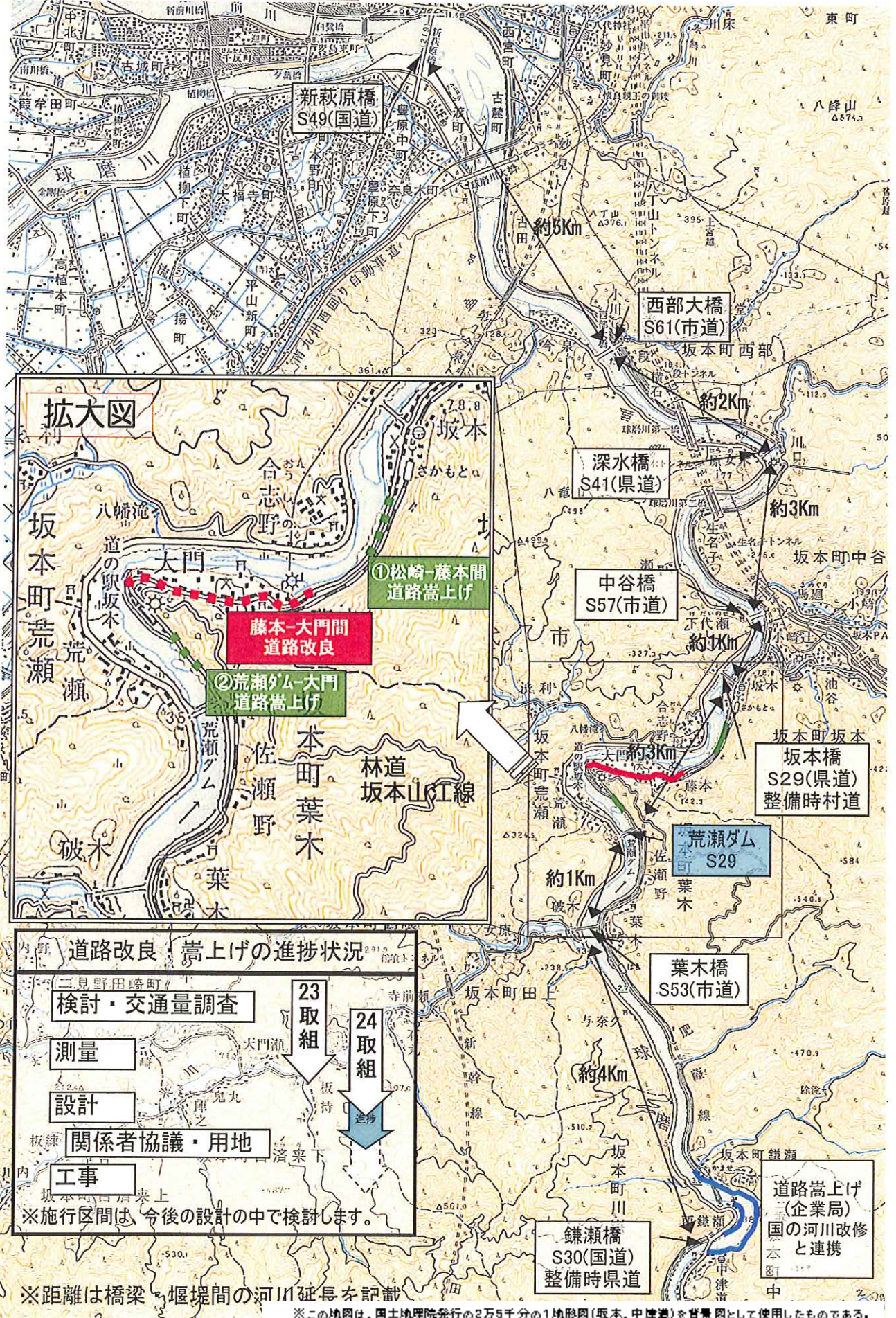
県・市で協議を行っているが、引き続き協議会で議論

○県

地元の方々が「生活用の道路であり、生活の一部として必要不可欠」として、架橋を希望されている状況は理解できるが、県として整備することはできない。県道の安全性・利便性を向上させるなど、地域交通全体で対応

[参考] 球磨川架橋(代替橋)についての検討結果の御報告（第 5 回協議会報告）

地域交通関係箇所図



※距離は橋梁、堰堤間の河川延長を記載
 ※この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(坂本、中津道)を背景図として使用したものである。

